袋高通信

あいのだより

'20 7月号
令和2年7月31日発行
通巻第177号
静岡県立袋井高等学校

就任ご挨拶

PTA会長　中原　昌幸

この度令和二年度の父母教師の会（PTA）会長を務めさせて頂くことになりました中原昌幸と申します。これまで二年間はPTA副会長という役席にて活動して参りました。私自身かつての母校に娘が進学し、自らもPTA活動に携わることとなり感慨深くも少しでも役に立てればという思いで各種活動に参画させていただいておりました。

なにぶん力不足ではございますが、役員の方々と力を合わせて活動に取り組んで参りますので、さらなるご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年度は誰も予想しえない疫禍のうちに一学期が終了し、子供達はもちろんのこと保護者の皆様におかれましても大変ご不安な日々を過ごされたのではないでしょうか。

集団での学校活動が著しく制限されるなか、子どもたちや保護者の皆様の貴重な思い出となるべき行事や、日頃の学習・部活動の成果を発表する機会が失われることとなり、がっかりされた場面も多々あったのではないかと思います。

未だ完全収束が見えない中では、健康・安全への配慮をしつつの学校生活になろうかと思いますが、不自由な社会環境が続く中で、学校・保護者・地域がそれぞれできる限りサポートし、子どもたちが楽しく充実した学校生活を送れるよう支援する必要があると考えます。未経験の状況が続く中でPTA活動においても手探り状態ではありますが、役割としてできる限りのことを支援できればと考えております。

私の想いとしては、まずは子どもたちへのメンタルケア、そしてICT教育の重要性を実感しています。子どもたちも自身の進学への影響度など、この社会状況に不安を大きくすることも大いに想定されますので、カウンセリングの機会や体制を充実する施策が必要と考えますし、社会環境に適応すべくWEB学習などへのさらなる取り組みは不可欠であると考えます。袋井高校の先生方の取り組みとしても動画授業なども試行されているように伺っておりますが、ぜひ推進強化していただけたらと思いますし、PTA活動としても何かサポートできることはないか皆様とアイデアを出し合って活動の中に組み入れていけたらと思っております。

私自身、恥ずかしながらこれまでは娘の学校活動に積極的に参加する経験も少なく、他の保護者の皆さまや先生方とお話しする機会もなかったのですが、袋井高校PTA活動を通じて、保護者の方々や先生方と交流する場を多々経験させていただいたことは大変貴重な機会となりました。本年度もPTA会合等の場で情報交換や意見交換を行っていければと考えますし、子どもたちを健全に育む教育の環境改善と維持に少しでも助力して行けたらと考えております。

一年間、私やPTA役員一丸となって袋井高校PTA活動をしっかり盛り立てて参りたいと思っております。子どもたちのためにどんな小さなことでもかまいません、お気軽にお声をかけていただき、ご意見やお知恵を拝借させてください。

皆様のご協力を重ねてお願い申しあげまして、私の就任の挨拶とさせていただきます。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

一年だより　一学期を終えて

高校生になり、「コロナ」に翻弄され続けた（まだ続いていますが）一学期が終わろうとしています。日数にすれば二ヶ月、「コロナ」との共存の中で、良くも悪くも高校生活に慣れてきた頃だと思いますが、お子様のご家庭での様子はいかがでしょうか。

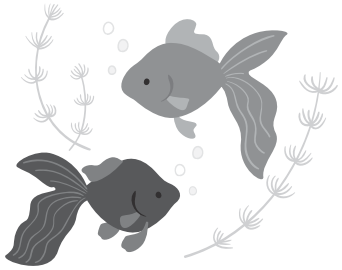
さて、学校での近況を御報告させていただきます。五月末から七月始めまでのＨＲ活動、総合学習の時間を使い文理選択（各自の「進路」に係わる問題です。慎重な選択、御家庭での話し合いをお願いいたします。）について考えてもらいました。六月末の外部模試（全国の志を同じくする人たちの中で自分の位置を知る、自分の力を知る目安になります。）、そして七月に入り、学期末試験が行われ一学期終了です。お子様にとっては初めての高校生活、どんな生活ぶりだったでしょうか。

これから「夏休み」という三週間ほどの休暇に入りますが、「文理選択」を一つの切り口に自分の進路、将来の姿を想像し、加えて一学期の反省をし、（反省の材料はたくさんあります。）その中から八月末から始まる二学期への課題を見つけ、それを解決する手段を探す、また、いい生活が送れている者はそれを続けてゆく、そんな「夏休み」であることを期待します。とは言っても、「張り詰めた蔓はいつかは切れる」でありますので、適度に緩みながら（緩みすぎは禁物ですが…。）この休みを乗り切って欲しいと思います。

まだ「コロナ」は終わってはいません。かつての日常を取り戻しつつある今、もう心配ないと感じてしまう、今まで通りの生活ができると思ってしまいますが、それは非常に危険なことだと思います。先にも述べましたが、どうやって「コロナ」との共存を図ってゆくかが、二学期以降の課題でもあることも感じています。

あっという間に過ぎ去った一学期、「夏休み」は自分を見つめなおし、一学期を振り返るよい機会です。充実した夏休みが過ごせるよう御家庭でも御指導よろしくお願いします。

（一年学年主任　落合克弥）



二年だより　今を大切に

年度当初からの臨時休校が五月下旬まで続き、その後も短縮日課を経て、六月末にやっと平常日課に戻りました。臨時休校やリモート授業、ステイホームの奨励など、普段と違う生活が続きました。この間、文化祭や遠足など予定されていた学校行事や、部活の試合や大会も中止になりました。一学期末に予定していた進路行事も中止、夏季休業中に予定されていた各校のオープンキャンパスの多くも開催が危ぶまれています。私たちは、今まで経験したことがない、先が見えにくい時代を過ごしています。これから世の中はどうなっていくのかと、不安を感じている生徒も多いと感じます。

先日、進路希望調査があり、提出された志望先を見せていただきました。現時点での第一希望のレベルは全体的に非常に高いものでした。難しい社会情勢の中でも、自分の将来に向けて、生徒一人一人がそれぞれの夢を抱いてくれていることに光を感じました。また、夢を実現できるように励まし、支援していかなくてはならないと改めて感じました。今のところ大学入試のあり方は、コロナの影響で大きく変化することはなさそうです。例年通り、自分で努力を積み重ねて実力をつけ、壁を突き抜けるしかないようです。不安に押しつぶされることなく、夢を夢で終わらせない強い気持を持ち続けて生活することが求められます。高二の家庭学習時間の目標は、平日二～三時間、休日三～四時間です。Ｃｌａｓｓｉの学習時間調査結果では、全体として目標を達成できていません。中には、三年生並みに一日六～七時間家庭学習している生徒もいます。一方、ほとんど家庭学習をせず、宿題すらままならない生徒もいます。もう二年生です。将来のことを考えながら、動き出すことが必要です。卒業生へのアンケートに、「いつから受験勉強を始めたらよいですか」の質問がありますが、答えとして「二年生から」や「早ければ早いほど良い」が多いそうです。今決意し、今始めることが大切です。

今年一年、健康維持を前提にして、将来の夢を見据え強い気持ちで生活していけるように指導してゆきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

（二年学年主任　栗田秀樹）

三年だより
学校再開の幸せをかみしめる日々

こんな生活が待っていると、一体だれが予測したでしょうか。

昨年秋には入試制度の変更が発表され、年が明けてからは新型コロナウィルスの感染が外つ国で報告され、あっという間に国内でも感染が拡大し、全国で学校が休校になり…。高校入学後、力を蓄え、さあこれからその力を存分に発揮しようというときに、学校行事も部活動の大会もなくなってしまいました。

――分からぬ。全く何事も我々には分からぬ。理由も分からずに押し付けられたものをおとなしく受け取って、理由も分からずに生きてゆくのが、我々生き物のさだめだ。

『山月記』の李徴の言葉が浮かびます。

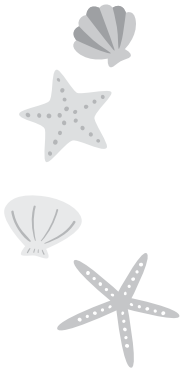
だれのせいでもない、だれに文句を言うわけにも怒りをぶつけるわけにもいかない。

それでも我が袋井高校の三年生諸君は、学校再開後も粛々と、そして丁寧に日々の生活を送っています。大切なものをいとおしむように。

六月一五日から一九日まで、文化部の校内発表を行いました。展示された作品もすばらしく、放課後の発表も感動しました。校内だけの発表でしたが、充実した時間を過ごすことができました。運動部でも、部内試合や代替の大会などが企画されているようです。生徒それぞれの心の中には、きっと、「ひとりではない」ということが刻まれたことでしょう。先生方、保護者の方々、生徒会、級友、部活動の仲間、そうした、「ひと」とのかかわりがあるからこそ、活動ができ、力を発揮することができるのだと。事実、文化部の発表では、どの団体の代表からも感謝のことばが述べられました。そうした姿を見る我々職員もまた、がんばらなければと思うのです。

さて、六月下旬に、文科省から大学入試要項が発表され、共通テストの日程も定まりました。これからは、それぞれの目標に向かってさらに実力を蓄えていかねばなりません。授業を中心に、補講、模擬試験などを有効に活用して受験に備えられるよう、力の限りサポートしてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

（三年学年主任　大石真理）



今年度の取り組みより　進路課

徐々に各大学のパンフレットが届くようになりました。毎日数十も届く受験情報の中から生徒のニーズに合った情報を的確に届けることを心掛けて展示しています。

進路課の今年度の主な取り組みは新入試への対応です。学力の三要素の確実な育成・評価を目的に入試改革が実施されます。大学入試センター試験から大学入学共通テストに変わり、各大学の個別試験においても学力を多面的総合的に評価する選抜が広がっていきます。入試の変更点についていくつか挙げてみます。

まず、大学入学共通テストですが、特に英語の変更が大きくリーディングとリスニングの配点比の確認は必須です。県内の大学では、静大、浜医大が三対一、文芸大では一対一の比率となります。既に公表されている国公立大に注目してみると、リスニングの比率が高まる傾向にあります。また、これまでリスニングの成績を合否判定に利用していなかった大学でも、新入試から利用する大学が目立ちます。

また、多面的総合的な評価を行う入試が実施されます。例えば、学校推薦型選抜、総合型選抜を導入したり募集人員を拡充したりすることで、後期日程の廃止や縮小を行う大学が増加しつつあります。さらには、一般選抜でも面接の導入や提出書類を評価する入試が拡大しようとしています。県内では、静大・人文、教育の小論文追加や国語の範囲変更、県大・看護の募集人員変更などです。一般選抜における面接追加は、医療や教育分野で動きがあります。各選抜における出願・合否発表・試験日程などの変更も決定しました。総合型・学校推薦型選抜の合否判定が十一月一日、十二月一日以降になり、少し後ろ倒しの感じがありますが決まりました。私立大学においても、早稲田、青山学院、立教大で大きな入試変更があります。関西学院、東京理科大では学部学科の再編があり注意が必要です。

主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度が今まで以上に求められています。生徒一人一人が活動記録を振り返り、自分自身の学びを整理しながら自己理解を深めることができる進路指導をしていきたいと考えております。

大学入試制度の変わり目にあたり、生徒、保護者の皆様に不安がないように情報の収集と提供に努めてまいります。ご質問などがありましたら、お気軽にお寄せください。

（進路課長　原田卓彦）

一学期を振り返って　生徒課

一学期早々からの臨時休校でしたが五月二五日より学校が再開され、時差通学、短縮授業を経て、現在では通常通りの登校時間、授業時間となりました。だからといって、まだまだ新型コロナウイルスの不安が消えたわけではありません。学校生活においても新しい生活様式を取り入れながら注意して過ごしております。

さて、そういった一学期も終わり、長期の夏季休業に入ります。一学期を振り返ってみて、どういう学期になったでしょうか。

学校行事の柱である「緑風祭」ですが、生徒会執行部を中心に従来の形ではなく新型コロナウイルスに対応した三密を避ける工夫を講じての開催を何とかできないかと年度当初、目指しておりました。しかし学校再開が五月下旬となり、準備期間が十分に取れないと判断をいたしまして、急遽、文化部発表会という形で校内の生徒向けに発表をしてもらいました。どの部も準備期間が短く、公演をする場所も十分ではありませんでしたが、三年生にとっては最後の発表ということでどの部も精一杯のパフォーマンスを見せてくれました。また展示をする部活動も毎年秋に行われる疾風祭に準ずるような形で、各々作品を完成、発表してくれました。どの作品も3年間で高めた素養や文武両道を果たした思いを乗せた素晴らしい作品でありました。

運動部では、報道でもご存じのとおり、高校総体、夏の甲子園が中止となり、三年間の集大成を示す場がなくなってしまいました。一部の部活動では、県や西部地区レベルで代替大会が開催されたものの、多くの運動部の生徒が完全燃焼できぬまま引退となってしまったことは本当に残念でなりませんでした。

例年は、部活動の引退をもって三年生が受験モードへ突入していきます。今年の三年生についても、各自のスタート時期は違いましたが、現在では全ての生徒が真剣に受験勉強に励んでおります。この切り替えも袋井高校の伝統となっております。その様子を下級生はよく見ておいてもらいたいと思います。

また頭髪・服装に関してですが、ほとんどの生徒は大きな問題もなく、袋井高生としての品位を保っていると思います。二学期もこの状態を保って欲しいと思います。一方、自転車の乗り方ですが携帯電話をしながらの運転や音楽を聞きながらの運転、並進や一時不停止といった違反行為も見られるなど、交通安全マナーの改善がなされていないことは本校の大きな課題となっています。学校再開直後から交通事故の報告も数件ございました。幸い、命に関わるような大きな事故はありませんでしたが、一つ間違えれば大きな事故に繋がりかねないものもありました。ご家庭においても「命の大切さ」の観点から、交通安全教育を行っていただきたいと思います。まだまだ、校外での生活には不安はあるものの、学校における学習や部活動、また、生徒会活動では生徒たちに健全性を感じます。しかし現状に満足せず、袋井高校生としてのプライドをもって生活してもらいたいと思います。

終業式には、「夏季休業中の諸注意」が配布されますので、よく読んで長期にわたる生活を充実した期間にしてください。

（生徒課長　蔵原　純）

教務課より　教務課

新型コロナウイルスは世界中で猛威を振るい、多くの人々の命を奪っただけでなく、あらゆる分野で甚大な影響を及ぼしています。袋井高校でも長期間の休業を余儀なくされ、文化祭をはじめとして多くの行事が中止となりました。このようなことは、生徒はもちろん、長年教員をしている我々にとってもまったく初めての経験であり、頻繁に変化する状況に振り回され続ける毎日でした。学校では急遽課題を作成したり、それまで全く経験のなかった授業動画の配信に試行錯誤を繰り返しながら挑戦したりしましたが、課題の分量や動画配信のクオリティに改善の余地があったと反省しています。特に動画配信については、今後も授業を補完するものとして活用し、あってほしくはないですが、再度の休業の際には本格運用が可能となるよう、全教員で研修を重ねていきます。

五月二五日から学校が再開され、当初は60分の時差登校で40分授業、部活動なしで始まりました。六月一日から部活動が再開され、六月一五日から30分の時差登校で45分授業となり、六月二九日からは平常日課に戻りました。といっても、まったくの元通りではなく、今後も多くの制約の中での学校生活となります。あの閑散としていた校舎に生徒が戻り、放課後のグラウンドなどからは部活動の元気な声が聞こえるようになって、学校も生き返ったように感じます。今後も新型コロナウイルスの感染が広がることなく、このまま緩やかにでも元の学校生活に戻ることを願ってやみません。

なお、二学期の始業式は八月二五日で、一、二年生は課題テストもあります。九月以降は今のところ四月当初の年間行事予定の通りですが、状況によっては変更もあり得ることを御承知おきください。

（教務課長　河合　良訓）